

# 日根荘物語

はなのしほ  
ものがたり

時空を駆ける旅引付

日根荘物語

時空を駆ける旅引付

マンガ作画 / 松野義己

マンガ作画 / 松野義己



『九条政基公旅引付』の日根荘に取り残された  
未来少年ミノルの戦国サバイバル!!

未来からタイムトラベルで戦国時代の日根荘を訪れていたミノルは、  
戦に巻き込まれて未来へ戻れず、ひとり取り残されてしまう。  
九条政基に気に入られ、日根荘で未来からの迎えを待つのだが……。



令和3年度「観光拠点整備事業」

# 日根荘 物語

時空を駆ける旅引付



## 泉佐野市歴史ファンタジーシリーズ②

### 「日根荘物語～時空を駆ける旅引付～」

#### 目次

・「泉佐野市の歴史をマンガで楽しんでください」	5
・戦国時代の貴族・九条政基が日根荘で書いた日記「政基公旅引付」とは	6
・登場人物紹介	8
・プロローグ	10
・オマケの4コマ劇場①	21
・第一章「守護方乱入」	22
もっと物語がおもしろくなる歴史ポイント【村の成り立ち】	53
・第二章「根来寺侵攻」	54
もっと物語がおもしろくなる歴史ポイント【村の暮らし・入道村の生業と行事】	81
・第三章「連帯する村人達」	82
・オマケの4コマ劇場②	111
・第四章「吉書始の事件」	112
もっと物語がおもしろくなる歴史ポイント【正月を祝う】	145
・第五章「タイムリミット」	146
・オマケの4コマ劇場③	191
・九条政基 日根荘滞在略年表	192
・主な参考図書・資料	193

マンガ作画：松野義己 監修：廣田浩治



いづみ の れきし  
泉佐野の歴史を  
たの  
マンガで楽しんでください

泉佐野市の日本遺産「日根荘」のストーリーを  
小学校中高学年の児童にも分かり易く紹介する  
漫画読本が完成いたしました。

「日根荘」は、「ひねのしょう」と呼ばれ、  
京都の上級貴族九条家が鎌倉時代につくった荘園です。  
荘園は、住民の共同体であり、  
中世に生きた先祖の地域社会そのもののことを言います。  
このシリーズでは、今も中世から変わらぬ風景を見ることができる  
泉佐野の荘園が、どのように成立し、受け継がれてきたのか、  
泉佐野市の歴史に、マンガらしい面白さで  
アレンジを加えたファンタジー作品に仕上げました。

日本遺産日根荘推進協議会 会長 八島 弘之

発行者  
日本遺産日根荘推進協議会（泉佐野市教育委員会 文化財保護課内）  
〒596-8330 大阪府泉佐野市有馬東1丁目1-1  
TEL.072-447-6796

事業名  
令和3年度「観光拠点整備事業」



## 戦国時代の貴族・九条政基が 白根荘で書いた日記 「政基公旅引付」とは？

九条政基(1445~1516年)は戦国時代を生きた京都の公家・九条家の当主です。九条家は公家のなかでも天皇に次ぐ摂政・関白の職につく五つの公家(五摂家)という家の一つ、つまり公家でも最高名門です。また全国に数多くの領地(荘園)を持っていました。政基はこの九条家の当主となり関白をつとめました。

「政基公旅引付」は、九条政基が文亀元(1501)年から永正元(1504)年にかけて、約3年8ヶ月の間、領地の白根荘に滞在して支配を行った日記です。このとき政基は当主を引退しており、数え年で57歳から60歳、この時代にはかなりの高齢です。本来ならば公家は京都を離れることはないのですが、政基はわずかな家臣とともに白根荘に暮らしました。「旅引付」とは「旅」の日記という意味です。

政基が生きた戦国時代には、地位は低くとも力のある武士が各地を支配していった時代です。公家は領地を奪われ、その力は衰えていました。このような時代に、政基は白根荘を支配するため自らその領地に住んだのでした。しかし合戦が続く時代にあつて領地に住むことで討ち死にする危険がありました。

政基のような公家は日々の生活や仕事を日記(記録)に書きました。普通ならば残ることのない荘園の民衆の生活や、戦国時代の社会の有様が、その日記に描かれています。「政基公旅引付」が描く白根荘は、戦国時代の日本の歴史が最もよく分かる場所です。

・公家：京都に住み天皇に仕える貴族。摂政・関白は貴族の最高の地位。



京都を離れて約4年間  
日々の生活を日記に書いてたんじゃ



「政基公旅引付」は全部で5冊、写本は歴史館いずみさの所蔵の複製。原本は内閣府蔵書所蔵。

## その頃の日本は……

「政基公旅引付」の時代の日本は、全国各地で争乱が続いた戦国時代です。京都には白本を治める室町幕府という政府があり、その主である将軍がいました。しかし幕府と将軍の力は衰え、各地の武士は自力で領地を支配し、将軍の命令に従わなくなりました。このような時代のなか京都の公家でも、自力で領地を治めて武士達に対抗するため自ら領地に住む者が出てきました。また村や町に住む民衆も身を守るため武器を持って戦うようになります。「政基公旅引付」の時代から30~40年後には、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康が生まれます。信長・秀吉・家康によって日本は再び統一され、戦国の争乱は治まりました。

もっと物語が面白くなる？  
歴史ポイント

### 戦うお坊さん 根来寺

和歌山県岩出市にある根来寺は、今から約900年前に建てられました。多くの僧が宗教や学問にいそむ寺院でした。しかし武士に対抗して領地を治めるため武力を備え、特に和泉国を治める守護の細川氏に対抗して戦うようになりました。

根来寺の軍勢は、寺の周辺や和泉国の出身の僧侶や民衆から成っていました。その力は強く、守護細川氏や周囲の大名をしばしば打ち破りました。また武士とちがって民衆から成る軍勢であるため、その民衆の住む村や町も根来寺に味方しました。民衆に支えられた根来寺は、「政基公旅引付」の時代の後80年もの間、勢力を広げ、和歌山県北部から大阪府南部までの広い地域を領地にしていきます。ヨーロッパから鉄砲が日本に伝わると、根来寺では鉄砲隊をつくり、ますます力を強めました。



主人公。  
未来から戦国時代へ  
タイムトラベルしてきた  
元気な小学生。観光中に  
戦に巻き込まれて、過去に  
取り残されてしまうの  
だが…。

ミノル

日根荘に  
暮らす少年。  
ミノルを兄のように  
慕っている。

佐吉

ミノルの兄。  
タイムトラベル開発に  
関わる若き科学者。  
日根荘で奮闘する  
ミノルをサポート  
する。

レイ

九条政基

日根荘の領主である貴族。  
侍体の知らない少年ミノルを  
「神の子」と呼び可愛がる。  
和歌を読むのが好きだが  
上手くない…。

登場人

# 物紹介

**明尊**

根来寺の僧。  
日根荘支配を  
自論み守護方と  
争っている。

**石井在利**

政基に仕える奉公。  
笑顔が微妙。

**竹原定雄**

政基に仕える  
貴族。ミノルの  
教育係のような  
役割。

**山田重久**

政基に仕える武士。  
ニヒルな男前。

**佐藤久信**

守護方を裏切って  
根来寺に加勢する  
武士。戦い方が  
残忍。

**信濃小路長盛**

政基に仕える  
貴族。ミノルの  
身元引受人になる。  
筋肉が自慢。





われもたつ

みやこ たびさげ  
都をよその旅衣

政基様

もうすぐ日根荘で  
ございます

……!

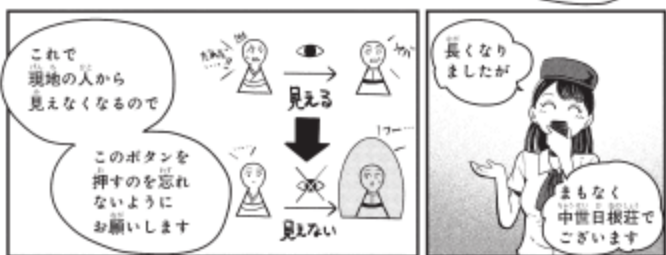
そうか

はる 春の行末は

いづくなるらむ

くじょうまさもと  
九条政基

われもたつ 都をよその旅衣  
春の行末はいづくなるらむ  
(政基様からて紙の途中)  
春も私にこの先どうなるのだろうか!





2×××年

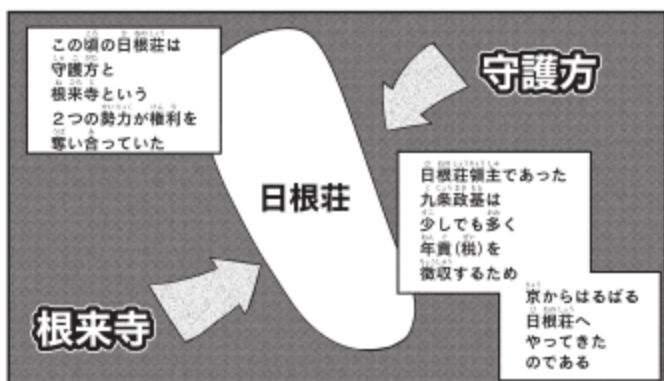
1501年



1501年 中世  
日根荘













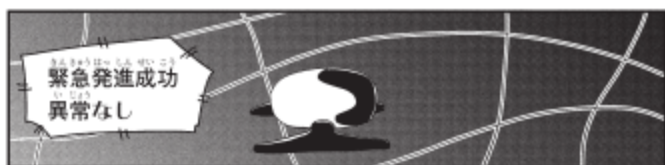






え……？





# オマケの4コマ劇場①

完璧



マジック



だい しゅう しよ こがたらんがし  
第一章 守護方乱入

……  
ん……

はっ

目を  
覚ましたか  
童あ

びっくりしたぞ

守護方の動きが  
怪しいと  
探ってみたら  
空から童あが  
降ってきた

くさねがきょう  
九条家家司  
しのこうじなが 40  
信濃小路長盛

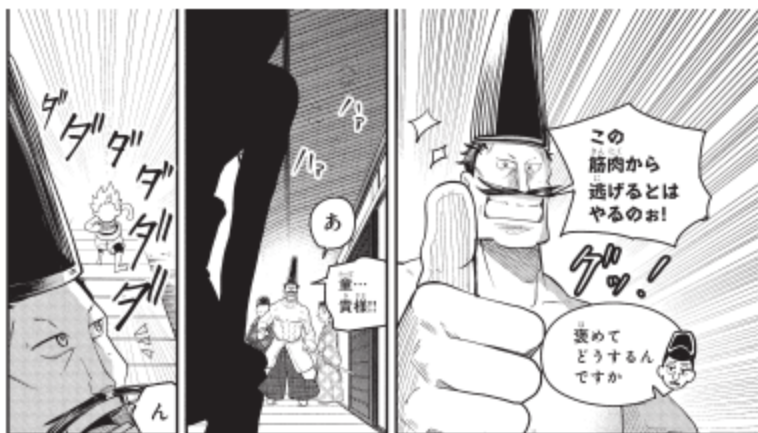








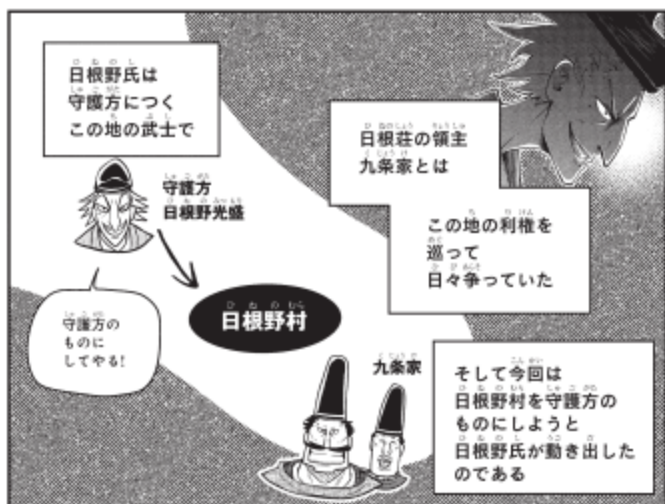








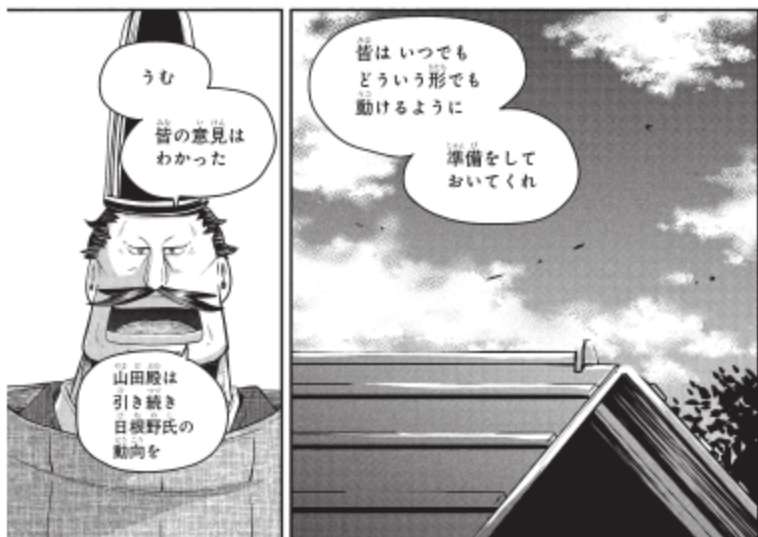


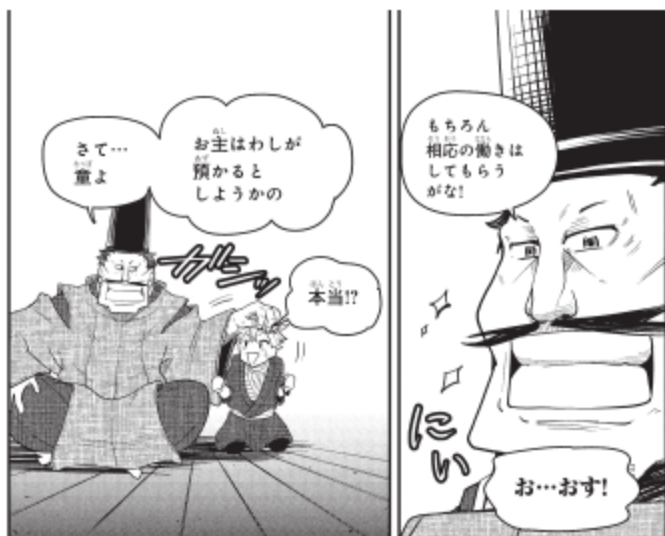














ちやうぜい  
中世って  
つれえ…



これは  
信濃小路様



調子はどうじゃ



守護方の侍様が  
稲に乱暴して  
いったので…

米がとれず  
飢泣いています

九条様には  
何卒守護方を  
どうか…

うむ



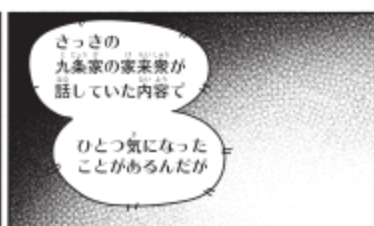
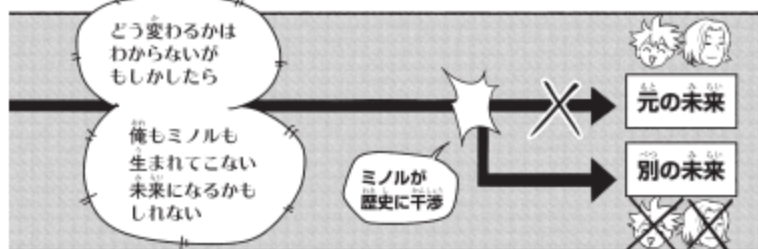
ひてえ…

ホッ…

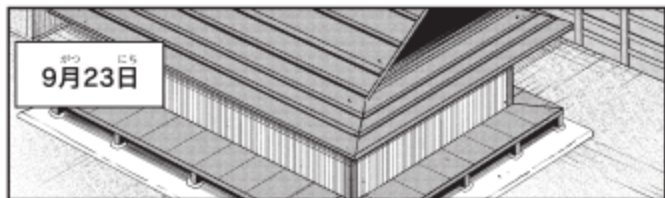
ホッ…

稲がやられると  
その年の米が  
とれなくなり  
多くの人が  
飢えに苦しんだ









1000人……!!



















この時代の村々には  
互いが守り守られる  
安全協定が  
結ばれていたため

徳川

徳川家が  
敵だと思い  
手を貸した  
のに

しゅごがた  
**守護方**

日根野村が  
陥なんて  
聞いてねえ!

ひねのむら  
**日根野村**

なぜだあ  
!?

守護方についた  
村々は少しずつ  
軍から離脱

残った  
守護方を

ち…  
ちくしょう!!

日根野村と  
九条家で  
撃退

守護方軍勢  
1000人

日根野村の  
人々200人と  
入山田村の支援

おいおい  
本当に…

圧倒的不利で  
始まった  
この戦いは









もっと物語が  
面白くなる  
歴史ポイント



## 村の成り立ち

日根荘の入山田村は現在の京伏野市大木・土丸にあたります。京伏野市でも最も南、紀州山脈に近い山間部にあります。周囲を山に囲まれ、堰井田が流れています。

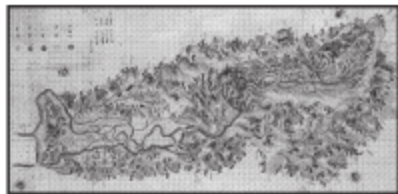
入山田村が歴史に現れるのは鎌倉時代の1234年。「政基公旅引付」の時代よりも270年も前です。源氏の九条家に伝わった古文書によれば、1234年には山あいの谷や川の近くに水田がつくられ、人々は米づくりをしながらか住んでいました。また入山田村の住民22人の名前と、水田に水を引く8つの用水路、2つのため池があったことが分かっています。

「政基公旅引付」の時代より80年前くらいになると、入山田村のなかに船瀬・高倉・大木・土丸の4つの村が現れます。これは現在の上大木・中大木・下大木・土丸の4地区にあたります。また上大木の蓮華寺、中大木の西光寺、下大木の円満寺、土丸の極楽寺といった今もある寺院やお堂が登場します。

入山田村はそのなかの4つの村の代表（番頭）が協力しあい、九条家に年貢（税）を納めました。「政基公旅引付」の時代には50人余りの有力な農民（古老と番頭）が、入山田村をまとめました。古老や番頭はある程度の水田を持ち農業を営む独立の農民でした。

4つの村から成る入山田村は、山と川がつくる豊かな自然の恵みのなかで暮らしました。米や麦を栽培し、山あいの地に美しい棚田をつくりました。また人々は山の木材も生活にいかし、柿・松茸・ヤマモモを採り、鹿などの狩りも行っていました。

入山田村の4つの村や神社・寺院のあり方は「政基公旅引付」の時代より300年後の「天鷲山七宝蔵寺並びに大木村絵図（火宅神社所蔵）」にも、よく受け継がれています。



天鷲山七宝蔵寺並びに大木村絵図(火宅神社所蔵)。約200年前の絵地図です。山に囲まれた村であることがわかります。

第二章 根来寺侵攻



守護方を裏切り  
貴様ら根来寺に  
付くからには

もちろん俺様の席は  
用意してあるんだ  
ろうな…?

守護方の  
佐藤久信



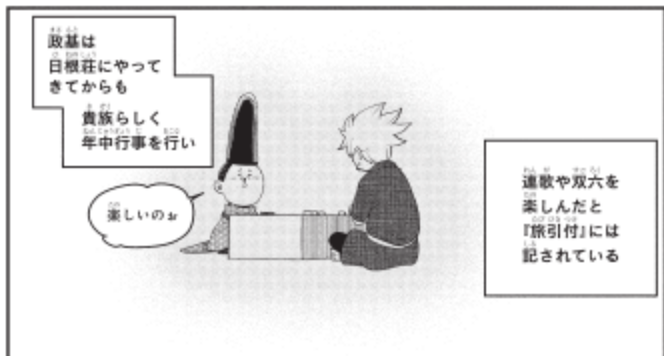
もちろん

佐藤殿  
あなたが  
いれば

鬼に金棒  
ですよ……



















くそッ…!  
佐藤久信め  
裏切り  
おったな!!

引け!

がつ にち  
8月21日



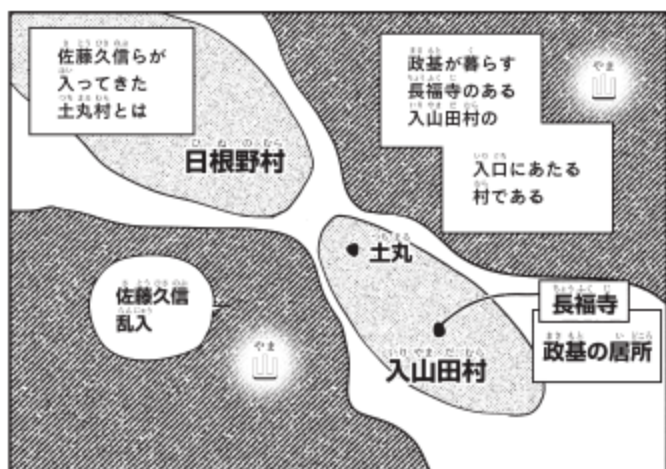




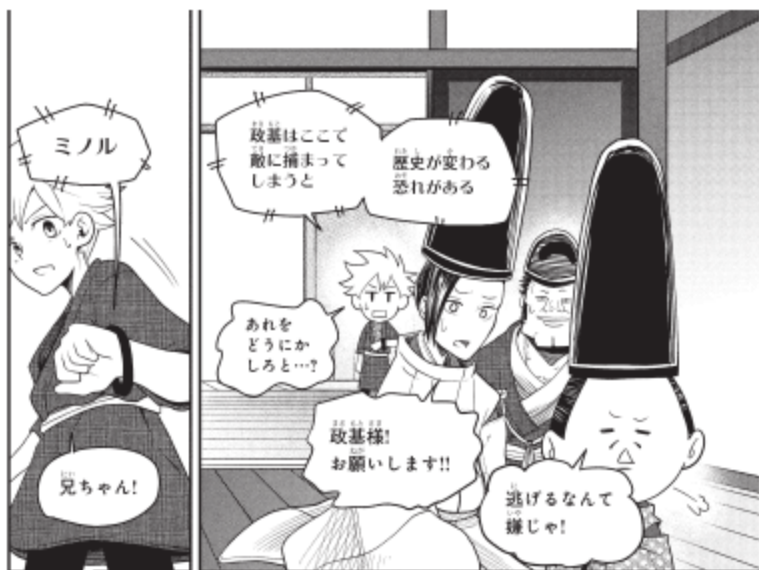






















ここで  
一句……

つがれた  
……

せい  
せい

夜もすがら

岩根を伝ふ深山路の

滝の如くに

汗ぞ落ち行く

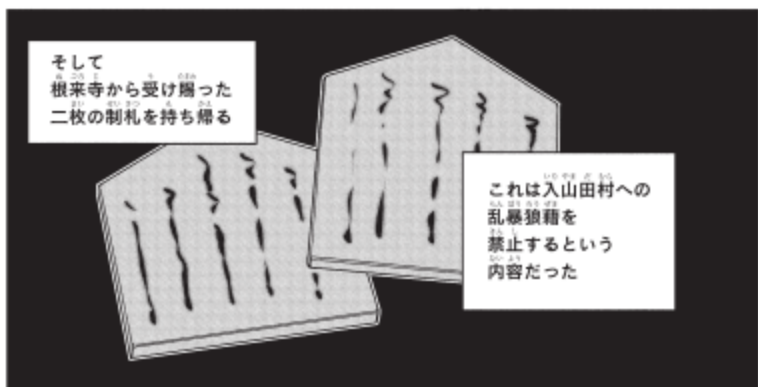
訳) 徹夜で道のように  
登って来たんだよ。  
山深くにある滝のように  
汗が落ちるよ







入山田村は  
根来寺への  
献上金を  
根来寺からの  
借金で滞った









もっと物語が  
面白くなる  
歴史ポイント



## 村の暮らし

～入山田村の生業と行事～

正月は入山田村の古老や番頭が政基に新年のあいさつを行い、酒のもてなしや会食を行い、新年を祝います。16日には内蔵寺で酉舞という舞が行われます。冬の田、人々は麦を栽培し、田起こしという耕作を行います。

4月2日は白根庄の白根野村にある天井神社(白根神社)の祭りで、入山田村の人々も参加します。4月下旬に麦の収穫と田植えを行います。5月5日には苺巻を食べました。

田植えの後は種が育つように草取りの作業が大変です。稲作には水が必要で、雨が降らず水が不足すると、神籬に雨を願う雨乞いの儀式が行われます。また6月には段銭(銭の税)を納めねばなりません。

お盆(盂蘭盆)にあたる7月15日の前後は、風流念仏という仮装行列の踊りがあります。きれいな旗を立てた行列で、村中が楽しめます。猿樂という演劇も自分たちで演じて楽しみました。8月15日にも風流念仏を行うことができました。8月23・24日は滝宮(火正神社)の祭りで、猿樂や、田楽という踊りで村中が楽しめます。

9月には松茸がとれ、稲刈りが行われます。10月には稲を刈った田に麦を植えます。また10月下旬は年貢(米の税)を納める時期です。11月10日に滝宮で行われるホタキという行事は、来年の豊作を祈願する祭りでしょう。

12月には番頭や寺の僧は政基にお歳暮の贈り物を届けます。寺では雑払いが行われ、正月の準備を行います。

入山田村の暮らしは稲作の作業を中心とし、人々はきびしい仕事の間にも、様々な神社やお寺の行事で楽しみました。また風流念仏・猿樂・田楽といった演劇や踊りも自分たちで行い、政基も感心するほどの高い文化を身につけていました。

・この頃の暦は今の暦より1か月ほど早く、1月は今の2月にあたります。



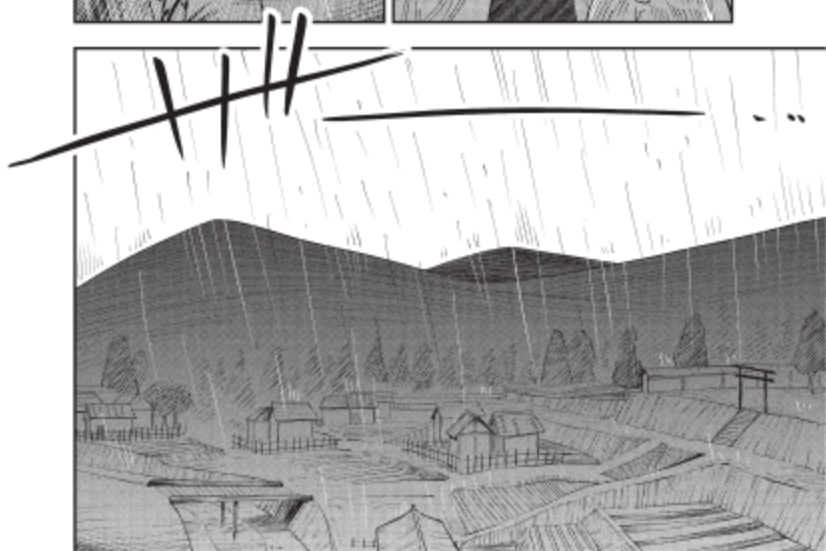
入山田村の中心となった火正神社。「故郷公家引付」が書かれた額は滝宮とよばれていました。祭りが行われたり、人々の奇習(奇談)や雨乞いの場にもなりました。





だい しょう れんたい むらびとたち  
第三章 連帯する村人達

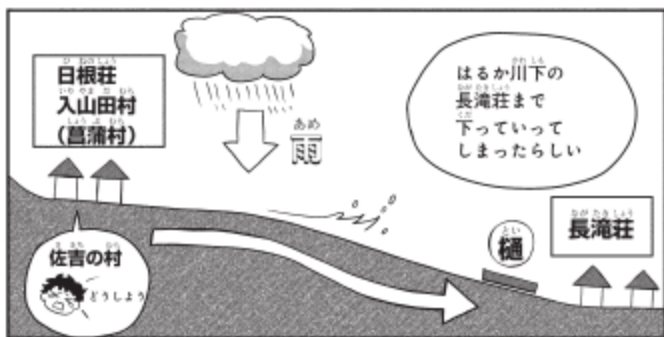
















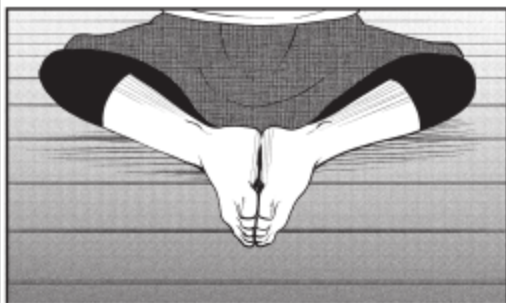
















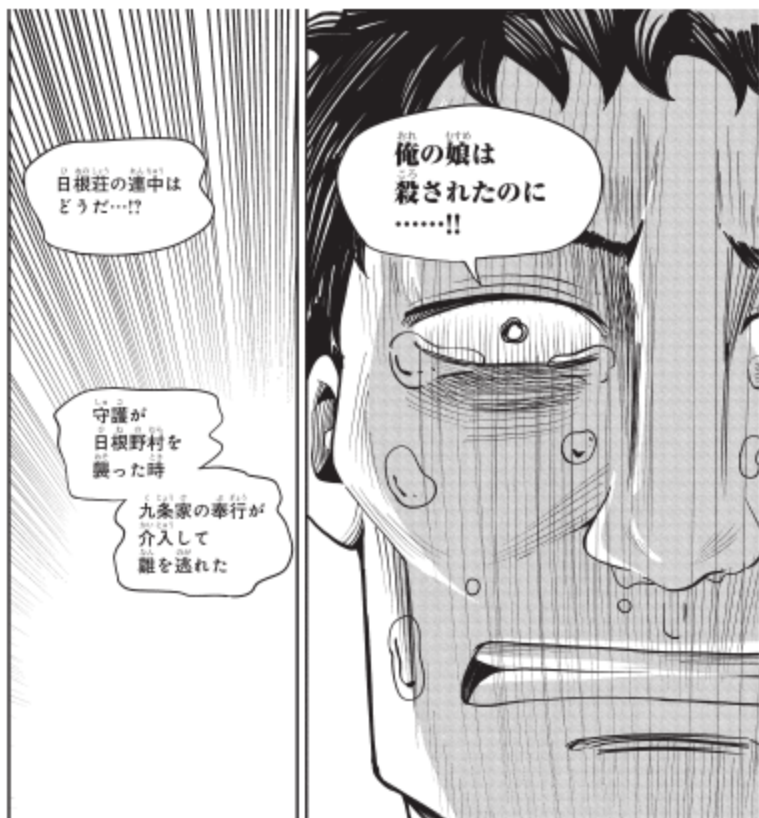












日根荘の連中は  
どうだ…!?

守護が  
日根野村を  
襲った時

九条家の奉行が  
介入して  
難を逃れた



政基様は  
そんなすげえ  
人じゃないよ…

















村々は  
助け合いながら  
連帯を  
深めていたのだ



つか  
疲れた  
——っ!



歴史修正  
完了だミノル



やったぜ  
兄ちゃん

だいふ  
そっちの生活も  
慣れてきたな



^^^  
まあねっ



大変だと  
思うが…  
あと2年だ

大丈夫さっ

もう俺は  
中世日根荘  
男子だぜッ



ふ…  
お前は  
強いな

あっても  
カレーとか  
そろそろ  
食いたいかし

フーメンとか  
焼肉も…!

ミノルは  
歴史を  
正しい方へと  
修正した

ミノルが  
いなかったら  
どうなっていた  
のが……

ミノルが歴史に  
関わったことで  
歴史が変化したと  
仮定していたが

それは  
もしかしたら  
大きな間違い  
だったのでは…?

ミノルが歴史を  
変えることは  
そもそも  
歴史の一部  
なのだと  
したら……



もしもノルと  
今あるこの歴史が  
違う道を  
選択した時

俺はどちらを  
信じれば  
いいんだろうか

# オマケの4コマ劇場②

## 筋肉おじさん



## 筋肉仕事人





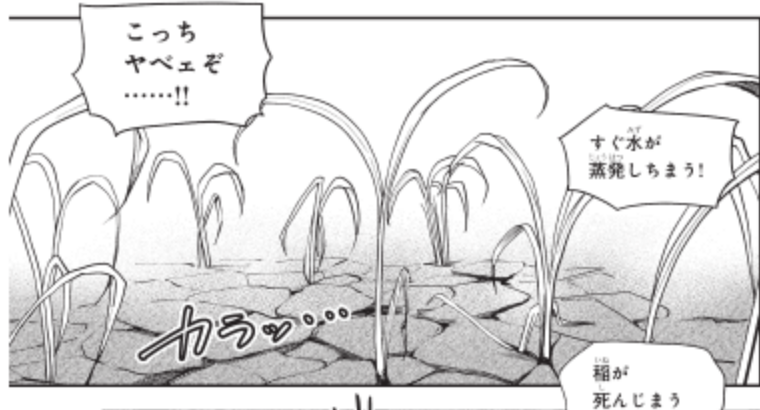
だい しょう きっしょはじめ じけん  
第四章 吉書始の事件



今度は大木村の娘が襲われたらしいぞ……









たきのみや  
滝宮

雨乞い?

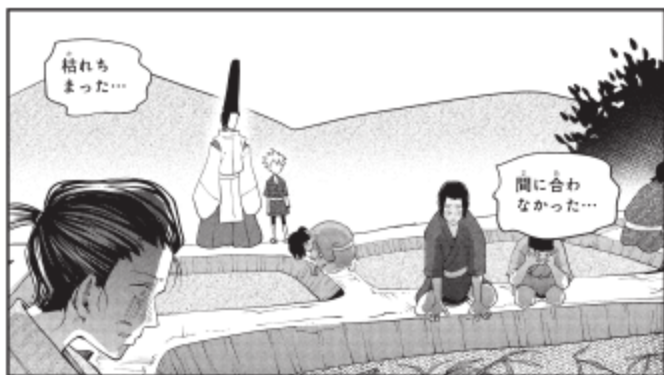
ミノルは  
初めて  
だったか?

日照りで雨が  
降らない時に  
神に祈るんだ

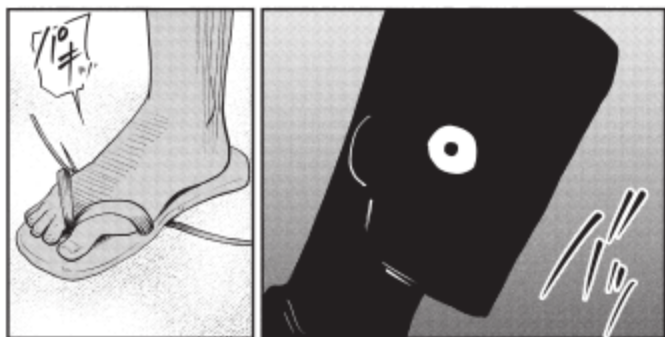
神様に…







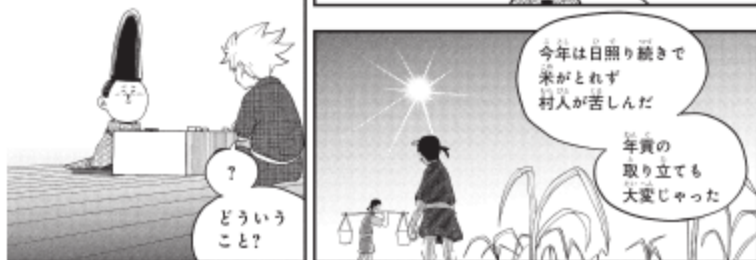














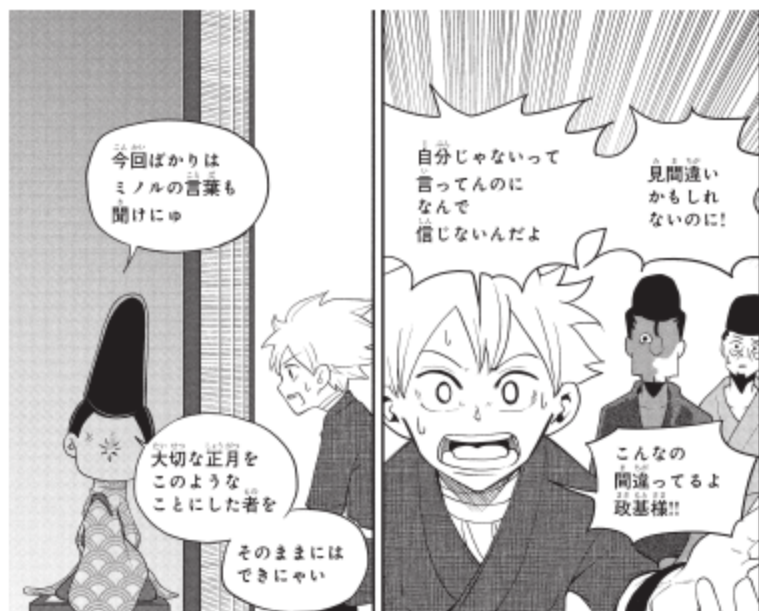


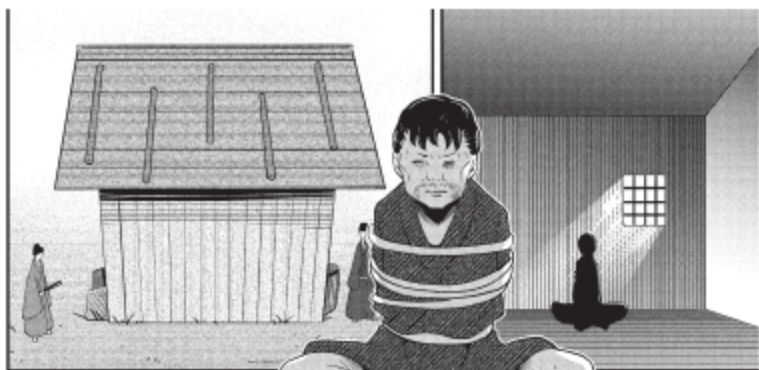
















煮えた湯に  
手を入れ

火傷の具合を  
調べる



あつーい!

あいつが  
犯人だ!

火傷をしなかった  
者は正しく  
火傷をした者は  
犯人という  
ことです



しかし  
その実態は

コッ

事前に犯人を  
話し合いなどで  
想定して

その者に火傷を  
負わせるんです



私を犯人に  
したい  
源三郎は

村人からの  
信頼も厚く

私を犯人に  
するようにと  
話し合っている  
ことでしょう



致基様に  
このことを  
伝えれば…!

無駄です

九条様にとって  
犯人は  
誰でもいい



大切な正月に  
泥を塗られた

誰かを  
殺かねば  
収まりが  
つきません



オレはもう  
おしまいです…!

佐吉を…佐吉を  
よろしくお願  
いします…!!



たじりくない  
田尻“宮内”  
ですが…?

ミノル  
兄ちゃん?

俺が  
助けるよ…

おいミノル  
待て…!!

歴史を変えては  
いけない…!  
ミノルッ!!

ミノル  
兄ちゃん!?

おれ  
俺がなんとか  
するんだ…!!



ちゃんちゃんと罪つみは  
裁さいかななきや  
九条様くじょうさまも納得のうとくされ  
ないだらう…？

お待まちち  
くだください

お前まへさんは  
……！







私の話を  
聞いてほしいんです



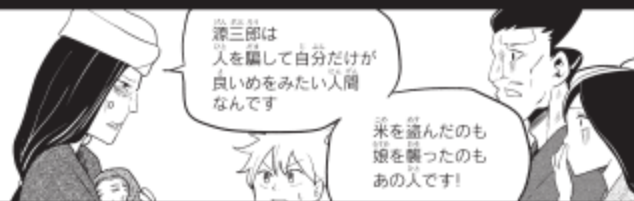
刀を盗んだのは私の夫...

源三郎宮内です



まさか...  
源三郎さんが...!?

なんでそんなことを?



源三郎は人を騙して自分だけが良しめをみたい人間なんです

米を盗んだのも娘を襲ったのもあの人です!



そ...それは本当ですか!?

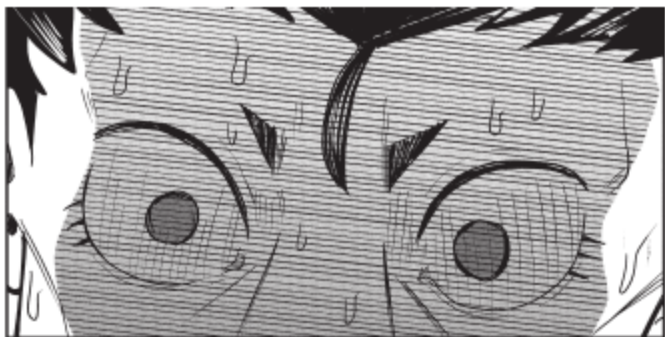
盗んだ刀を隠しに行くのを見ました

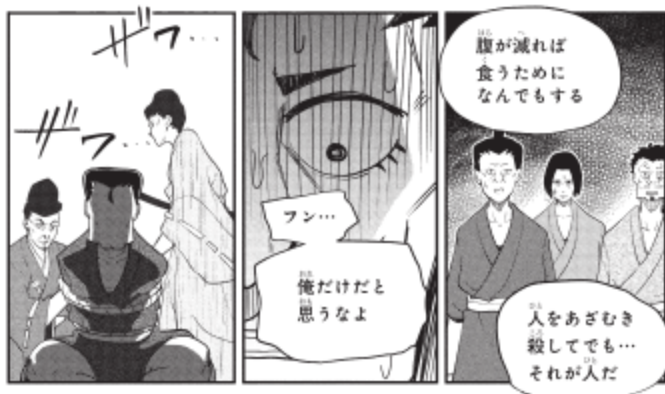


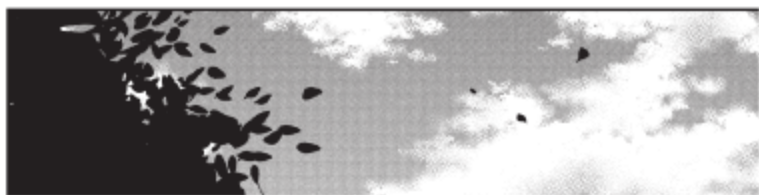
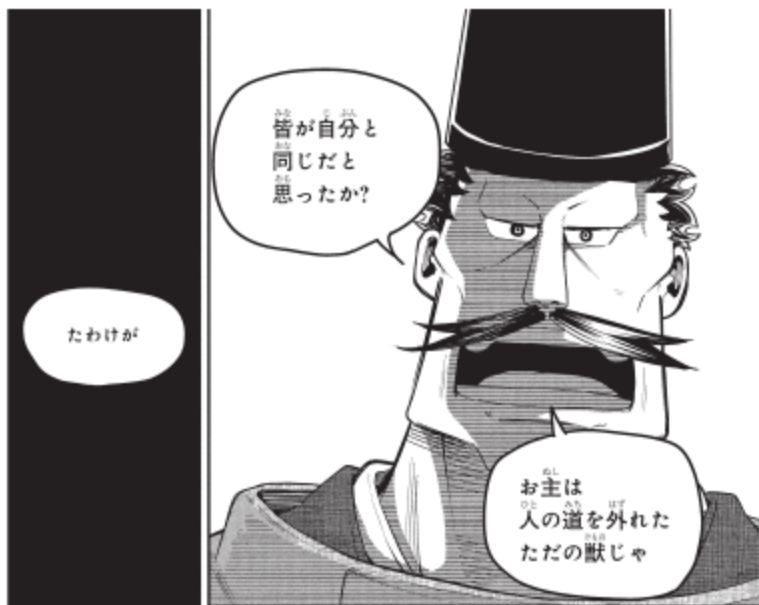
若い娘を襲ったことを自慢して私や子どもにはご飯を与えず殴る蹴るで...

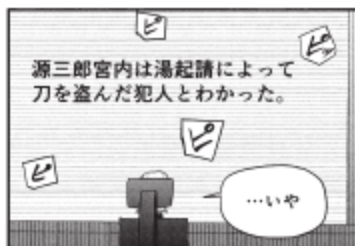
盗んだ米は独り占めして

もう耐えられない私達... 死んでしまう









もっと物語が  
面白くなる  
歴史ポイント



## しょうがつ いわ 正月を祝う

年の始まりである正月は、自根荘でも様々なお祝いの事や行事が行われます。

一日、政基は住んでいる長福寺からあちこちの神社のある方向を歩みます。そして家臣を集めて酒を出してもてなします。二日には入山田村の代表(番頭たち)が政基にあいさつのため参上し、政基は酒でもてなします。次いで政基は家臣や番頭を集めて吉書という儀式を行います。これは新年に年の初めの文書を書いて読み上げるものです。また政基は餅などを食べ、健康と長寿を願う歯固めの儀式を行います。

三日からは、自根荘のなかの寺院が餅・干し柿・茶・五穀を政基に贈ってきます。政基は寺の僧を酒でもてなし、福を贈りました。11日には入山田村の古老・番頭50人以上が集まり、吉書の儀式を行います。このほか自根荘では「餅」という住民の会食の集まりがあります。

自根荘の最も奥の天鳴山七宝滝寺では、修正会という正月の法会が行われます。そして七宝滝寺からお守り札が政基のもとに届きます。

小正月にあたる15日には三徳打が行われます。これは飾り物などを集めて焼く行事です。政基の住む長福寺の庭や門前で行われました。これは「とんど」「どんど」ともいい、現在も日本の各地で行われています。



### 悪事は神様に裁かれる…湯起請とは？

争い事や犯罪に際して行われた中世の裁判の一種です。

1400~1500年代に盛んに行われました。関係している人々を神社などに集め、湯(熱湯)を用意して、神様の居る場で熱湯に手を入れさせます。そうするとその人々は火傷したり苦しんだりします。そのやけどの具合やその人々の様子を見て、誰が正しいか、または有罪が無罪かを判定し、判決を下します。犯罪の場合は、その判決にもとづき処罰が行われました。

「湯請」とは神様に誓う、という意味です。湯起請を行ったこの頃の人々は、やけどの具合やその人々の様子に、誰が正しいかまたは有罪かについて、神様の判定が現れていると察していました。





だいしょう  
第五章  
タイムリミット









どうやら  
根来寺と守護とで  
和平が成立した  
らしい

しばらく  
おとなしくしていた  
根来寺が侵攻を  
始めたのが4月

今7月ですから  
3ヵ月で守護方を  
抑えたということ  
ですな…



根来寺は早々と  
我らの手の届きにくい  
日根野村の西側に  
僧を送り込んだ  
ようですぜ

根来寺の支配が  
ますます強固に  
なってしまう



和平が成立  
したんなら  
戦がなくなる  
んだよな…?

いいことじゃ  
ないの?

そう簡単な  
話ではない







和泉守護の細川から  
泉州の南の一角を  
守るために  
さらに細川を  
叩いておかねば

泉州の北の  
細川の本拠地を  
攻めるのだッ

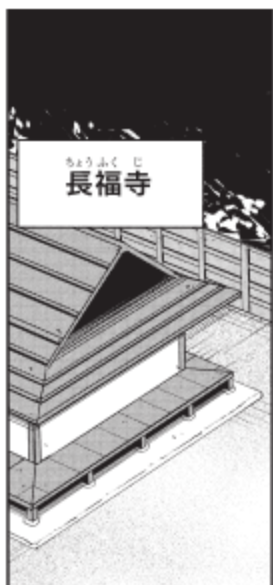


根来寺の侵攻は  
守護方との和平では  
止まらなかった

根来寺の足輕と  
佐藤久信は  
守護方の城を  
次々と攻略

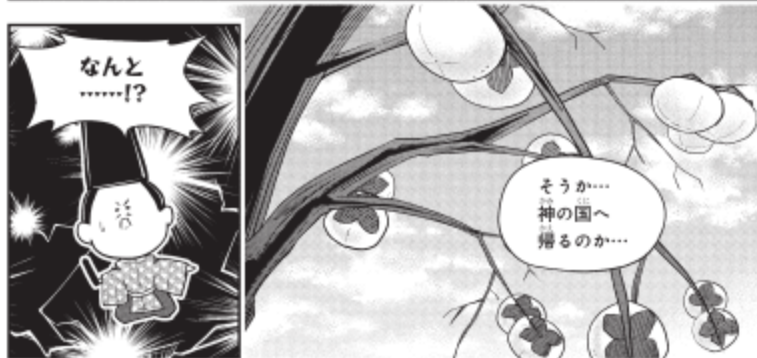


これにより  
根来寺の優勢は  
確実のものとなった

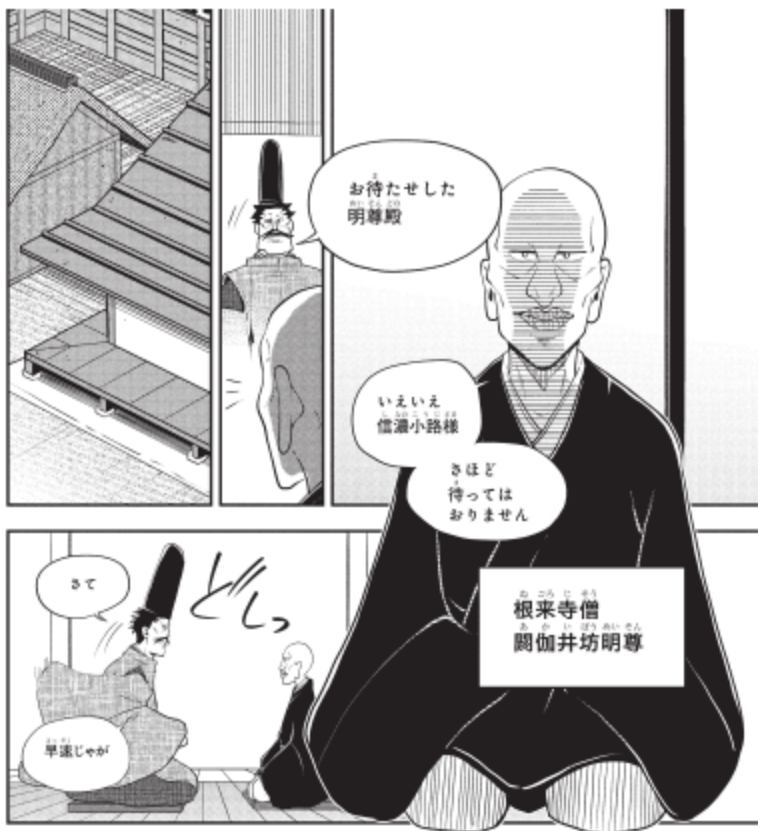








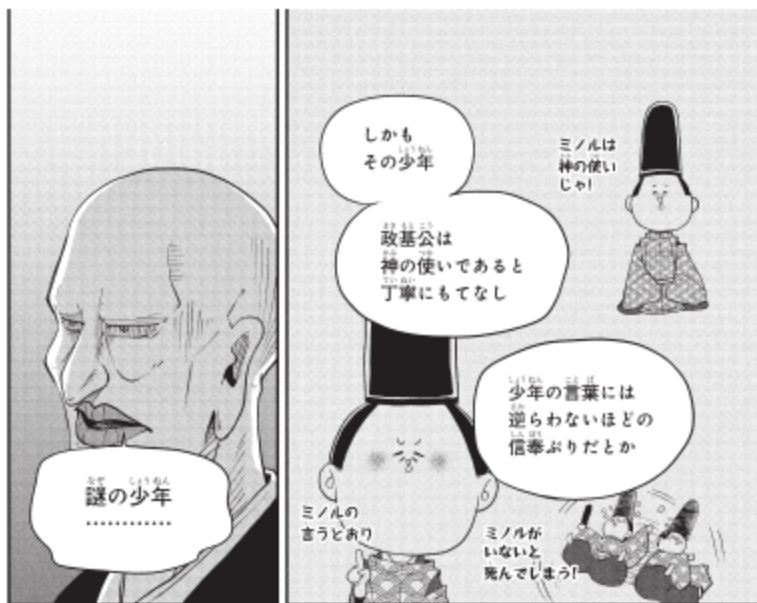
















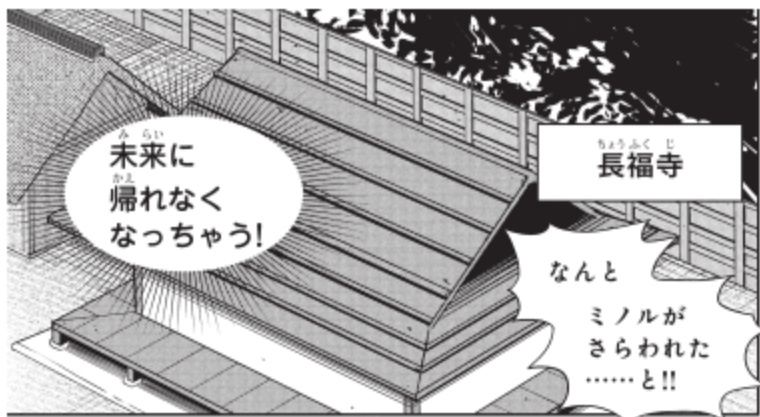












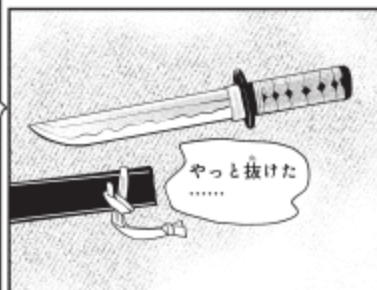








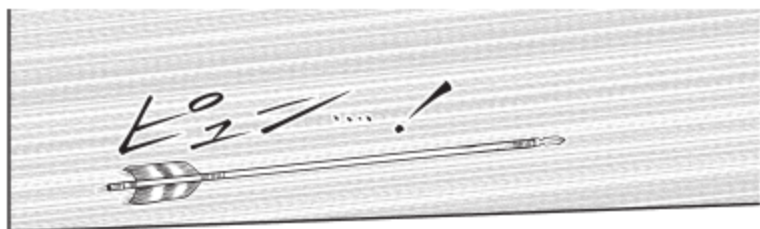






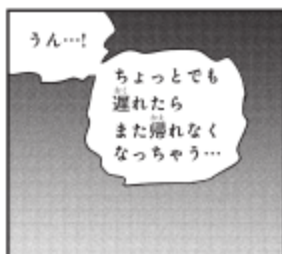














ほいさ!

と  
と



政基様に  
続けい!

我らも  
ミノルを  
見送るぞ



迎えが  
来る場所は?

政基様と  
逃げたお寺!

汗が滝みたく  
流れた...あの...



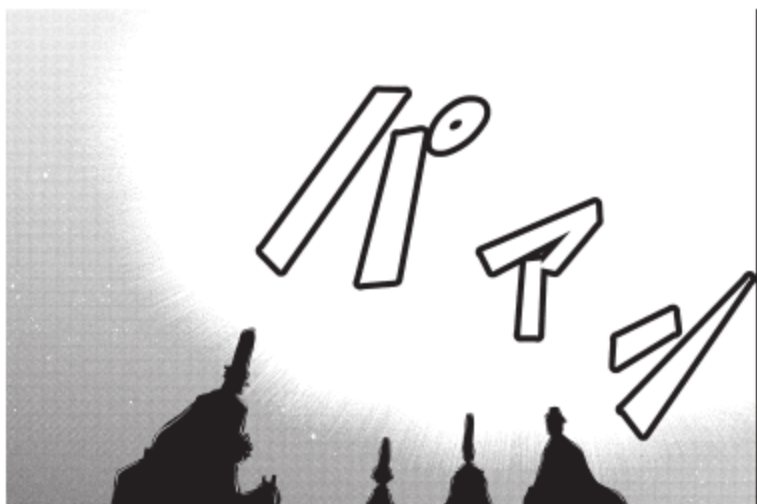


















1504年(永正元年)12月

年貢の取り分は減ってしまったが

まあなんとか日根荘は守れたじよ  
これもミノルのおかげかによ

九条政基は日根荘の直接支配を終えて京都へ帰った

日根荘にいた日々を綴った『政基公旅引付』は当時を知る重要な資料として後世に残されたのだった

いやー!

良き旅じゃったのお〜!



# オマケの4コマ劇場③



## れんが 連歌



## ママ



## 九条政基 日根荘滞在略年表

西暦(和暦)	月日	出来事
1501年 (文亀元年)	3月28日	九条政基(57歳)、和泉守護のいる堺を經由して、日根荘に下向する。 29日に日根野村の熊辺光院に到着する。
	4月1日	政基、入山田村の太木村長権寺に移る。
	4月24日	室町幕府、これよりしばしば、日根荘に対する両守護の乱を抑止する命令(備前奉行人事書)を下す。
	6月28日	政基の子息九条尚経が舅白に就任する。
	7月11日	15日まで停喪、入山田村か村(保瀬・芭蕉・太木・土丸村)の百姓が風流念仏を修し、慈基の長福寺にも参上する。
	7月20日	入山田村の満宮にて雨乞いが行われる(22日に雨が降る)。
	8月13日	入山田村の衆が幕府で世例の両守護の編流を極す。
	8月15日	和泉國五社宮致生念、入山田村で風流・徳業が奉せられる。
	8月22日	根来寺の貝船井坊明徳が政基に普請の返済を督促する。
	8月24日	25日にかけて入山田村の滝岡の祭。田楽などが催される。
1502年 (文亀2年)	8月28日	守護被官日根野光盛が日根野村に侵入するが、日根野・入山田村の百姓が聚闘する。政基、光盛の所領を没収する。
	9月23日	日根野光盛らが日根野村に侵入するが、百姓らが聚闘する。
	4月28日	日根野村東方百姓が政基への公事送納入を拒否し逆断する。
	5月22日	日根野村西方百姓が両守護方への年納を政基に訴える。
1503年 (文亀3年)	8月5日	根来寺・佐藤久備・神於寺が和泉に侵攻し守護方との合戦がはじまる。 日根野村西方や両辺の村が放火に遭う。
	8月21日	政基、戦火を避けて大崎山七宝講寺に避難する。
	9月7日	入山田村の番頭が根来寺と交渉して、在陣・乱禁厳禁停止の禁制を得る。
	1月15日	長瀬市の門前で三笠打(五重殿)が行われる。
	3月16日	政基の嫡が入山田村で誕生する。
	5月2日	政基の在荘経費のため船瀬村の百姓が根来寺から催請する。
1504年 (文亀4年) (永正元年)	6月26日	和泉國の早賦が深刻となり、満宮で雨乞いが行われる。
	7月12日	入山田村の百姓が佐野市で日根野光盛に召し掛られる。
	10月17日	両守護方が日根野村の熊辺光院の前仕舞の審判を召し捕る。
	2月26日	昨年の早賦・不作で百姓の多くが餓死し、百姓は粥粉を食へて存命を乞る。衆の過人を宮瀬村の百姓が検断(処刑)する。
	5月1日	政基、米麦の売買禁止や領錢を定めた法を定める。
	7月19日	根来寺と守護方の和平と日根野の半済となる。
	9月9日	根来寺・畠山氏・佐藤久備が泉南に侵攻し、両守護を破り和泉國を制圧し、これ以後、和泉一國に半済を行う。
	11月7日 12月21日	政基、根来寺御堂井坊明徳を日根野・入山田村代官職に補任する。 政基の上洛経費の取用状が作られる。政基、この前後に日根荘を去って帰洛する。

## 主な参考図書・資料

### 【市史】

『新修 桑丘野古史』第1巻 通史編 自然・中世 2008年 桑丘野市史編さん委員会編 汶文堂出版

『新修 桑丘野古史』第3巻 史料編 中世 2008年 桑丘野市史編さん委員会編 桑丘野市

### 【研究論文】

「戦国期における本所在荘の荘園政治―九条政基と日根彦人山田村具指寺―」

旗田浩治著 2015年 『史観』第巻13号収録 史観刊行会

「『政基公家引付』の日記史科学：戦国時の公家日記と在地社会」

旗田浩治著 2013年 『日本研究』48巻収録 国際日本文化研究センター

「『政基公家引付』(九条政基)―公家の在郷直養と戦国社会―」

旗田浩治著 2011年 『日記で読む日本中世史』(元本恭博・松岡斉 編著)収録 ミネルヴァ書房

「中世後期の九条家家康と九条家源莊園―九条政基・尚経期を中心に―」

旗田浩治著 2006年 『国立歴史民俗博物館研究報告』第104集収録 国立歴史民俗博物館

### 【書籍】

『おもしろ日本史』森田嘉二編著 2008年 潮泉書院

『荘園に生きる人々―政基公家引付の背景―』小山晴康・早瀬行編著 1985年 和泉書

日記野と桑丘野の歴史2 和泉書院

『戦国の作法―一村の紛争解決―』藤本久志著 1983年 平凡社選書100 平凡社

『戦国時代論』藤原道夫著 1996年 岩波書店

『家司と呼ばれた人々 公家の「イエ」を支えた実力者たち』日本史研究会監修/中嶋幸編著 2021年 ミネルヴァ書房

『戦国ファッション図鑑 イラストで解説する戦国時代スタイリング』山田順子監修/植田裕子企画・編集・文 2016年 文芸春秋

『復元模型で見る日本の歴史』五味文彦監修/坂井秀徳編集 2012年 山川出版社

『戦国時代の村の生活』藤原道夫文/宮下実絵 1988年 岩波書店

『隠れた名城日本の山城を歩く』小畑田行男監修 2020年 山川出版社

『国郡政部と早野』堀口隆晴・渡辺信吾著 2020年 ワン・パブリッシング

### 【パンフレット・リーフレット】

「平成13年度特別展「政基公家引付」とその時代」2001年 歴史館いずみさの

「歴史館いずみさの常設展示案内歴史館」歴史館いずみさの

「旗引付と二枚の絵図が伝えるまち 日本遺産いずみさのガイドマニュアル」2020年 日本遺産日根彦源進協議会

「旗引付と二枚の絵図が伝えるまち―中世日根荘の風景―」2020年 日本遺産日根彦源進協議会

「荘園遺産 日根荘ガイドブック」2015年 桑丘野教育委員会教育総務課



泉佐野歴史ファンタジーシリーズ②  
日根荘物語～時空を繋げる旅引付～

2022年3月31日発行

マンガ作画 松野義己  
監修・歴史解説 原田浩治  
企画・編集 三河かおり

装丁・レイアウトデザイン 稲葉さゆり

発行者 発行者 日本遺産日根荘推進協議会(泉佐野市教育委員会 文化財保護課内)  
〒598-8350 大阪府泉佐野市市場東1丁目1-1

事業名 令和3年「観光拠点整備事業」

印刷所 豊田印刷株式会社

製本所 豊田印刷株式会社

